

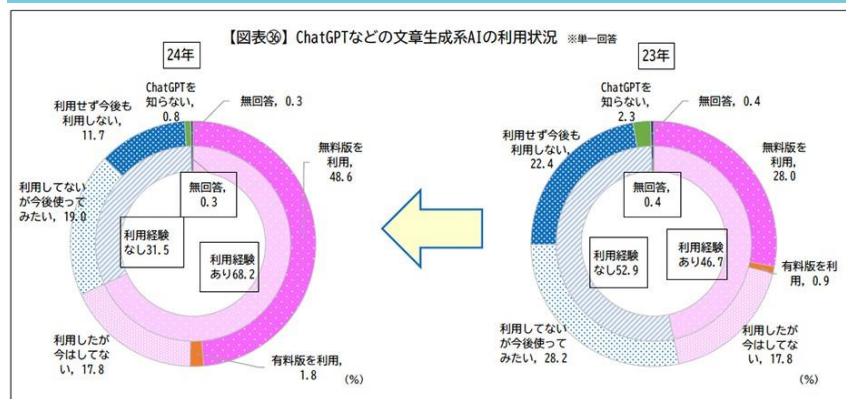
本調査は、全国大学生生活協同組合連合会により、学生の生活、主に経済的な側面と大学生の意識や行動を調べ、大学生協の事業や活動の改善に役立てるとともに、調査結果の公表を行うことを目的に、全国の国公私立大学の学部学生に対し、無作為抽出により抽出後、オンラインで調査を実施したもの。

- 調査実施時期：2024年10～11月（1963年より毎年秋に実施 ※未実施年あり） ● 回答数：11,590人（30大学生協 回収率24.0%）
- 調査項目の概要：収入・支出、奨学金、アルバイト、登校日数、サークル所属、就職活動、学生生活充実度、勉強時間、読書時間、

ChatGPTなど文章生成系AI利用状況・目的

https://www.univcoop.or.jp/vision/vision_493.html

3（5）ChatGPTなどの文章生成系AIの利用状況



A) 利用経験の広がり

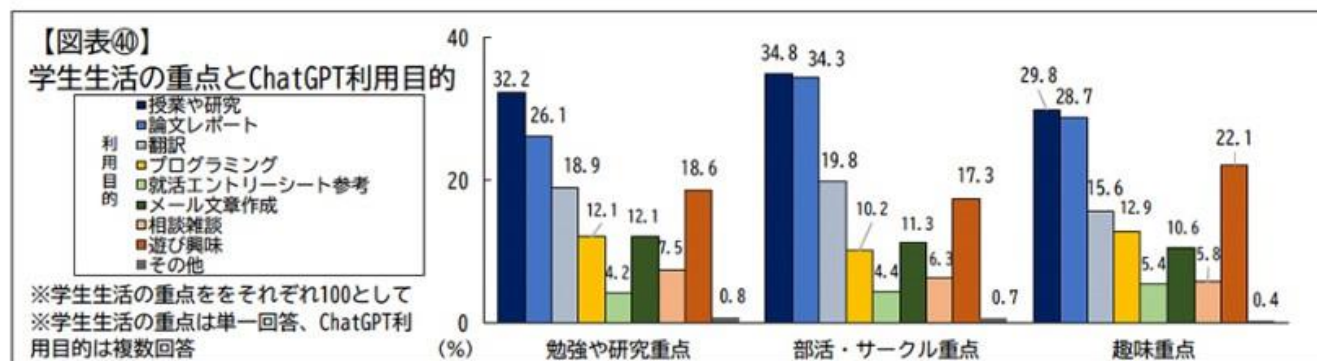
- 「利用経験あり」は2023年の46.7%から2024年には68.2%へと大幅に増加。
- 専攻別では、理工系77.1%、文科系62.8%、医歯薬系62.3%と、すべての分野で前年より利用率が上昇。
- 性別では、男性74.3%、女性61.7%と、男性の方がやや高い傾向。

B) 主な利用目的

- 上位目的は「授業や研究」「論文・レポート作成」「翻訳・外国語作文」「遊び・興味」。
- 上級生ほど「メール作成」「就活・インターンのエントリーシート」「プログラミングやExcel関数作成」など実務的な用途が増える傾向。

C) 勉強時間との関連

- 授業時間以外の勉強時間が長い学生の方が、ほぼすべての利用目的で利用率が高い。
- 特に顕著な差があるのは、
 - ・「就活エントリーシート参考」：1週間の勉強時間数7時間以上が12.7%、7時間未満が4.3%
 - ・「プログラミング」：7時間以上が17.1%、7時間未満が9.5%。



D) 学生生活の重点との関係

- どの生活重点層でも「授業や研究」目的の利用は約3人に1人。
- 「論文・レポート」目的は「部活・サークル」重点層が最も高く34.3%。
- 「遊び・興味」目的は「趣味」重点層が最も高く22.1%。
- 生活スタイルによってAIの使い方に違いがある。

E) 自由記述から見える意識と活用法

○ 肯定的意見

- ・ 効率化やスキル向上につながる
- ・ 幅広い活用が可能

○ 否定的意見

- ・ 不自然な日本語や画一的な表現
- ・ 思考力や創造性の低下への懸念
- ・ 専門分野での誤情報や法的・倫理的な問題

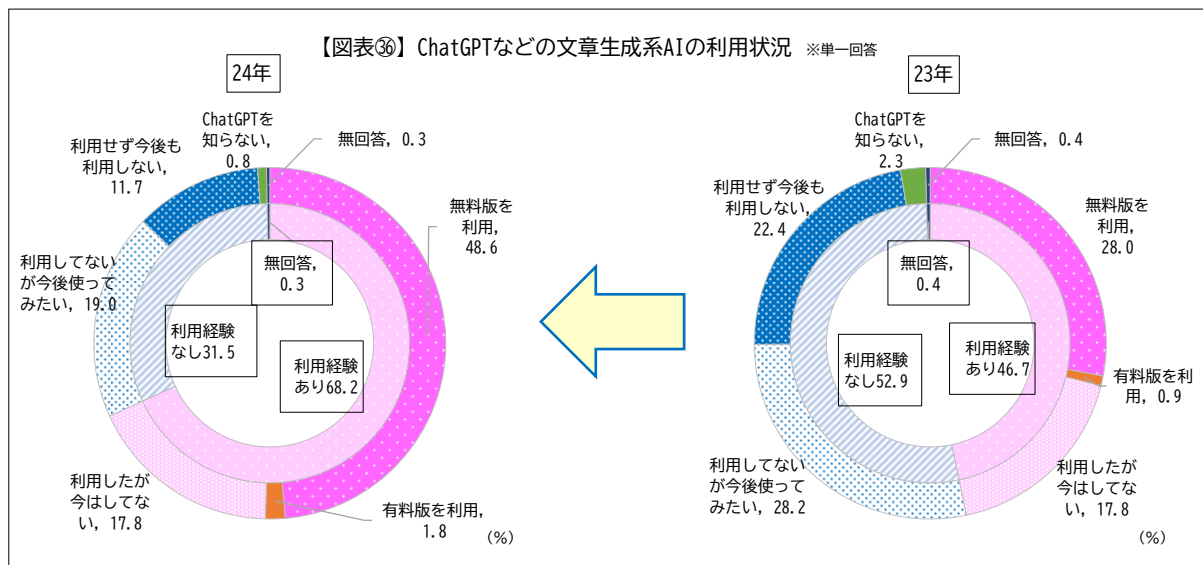
- AIの回答をそのまま信じず、自分で確認する重要性を指摘

○ ユニークな活用例

- ・ 運転免許試験の練習問題作成
- ・ 旅行プランのサポート
- ・ 自作ゲームの条件計算
- ・ 多言語文献検索の補助
- ・ 日本語のダジャレ作成
- ・ 小説の書き出しやアイデア出し
- ・ イベント企画のアイデア出し

誤情報や倫理面などのリスクを理解したうえで、授業や研究、レポート作成の参考やプログラミング等に幅広く利用している。生成系 A I 等を活用した「新しい学びの姿」を読み取ることができる。

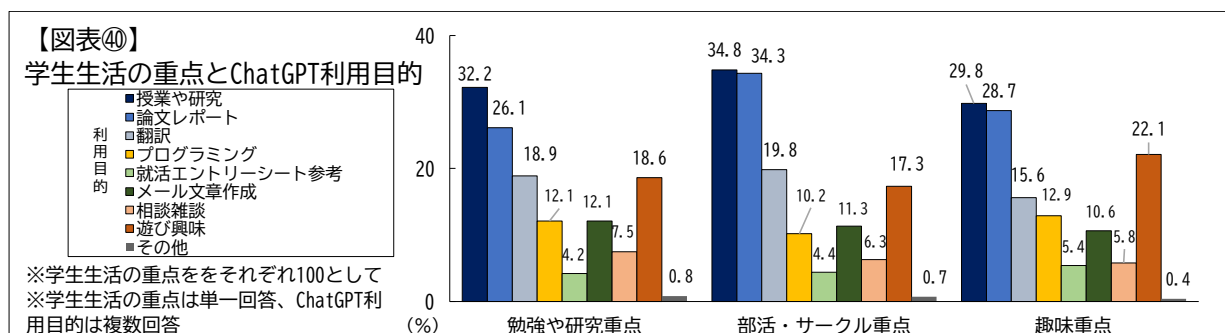
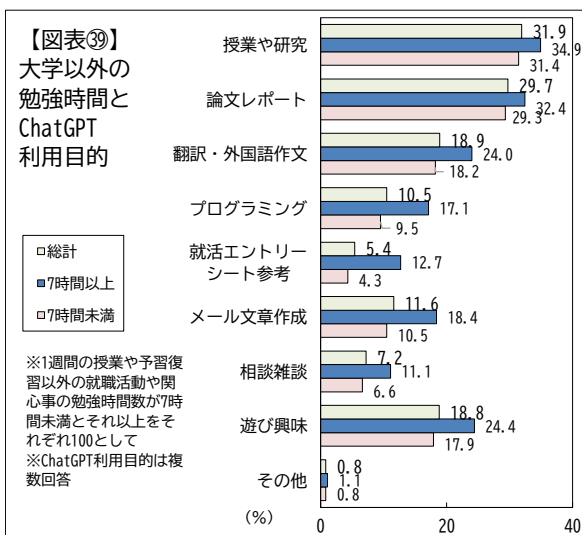
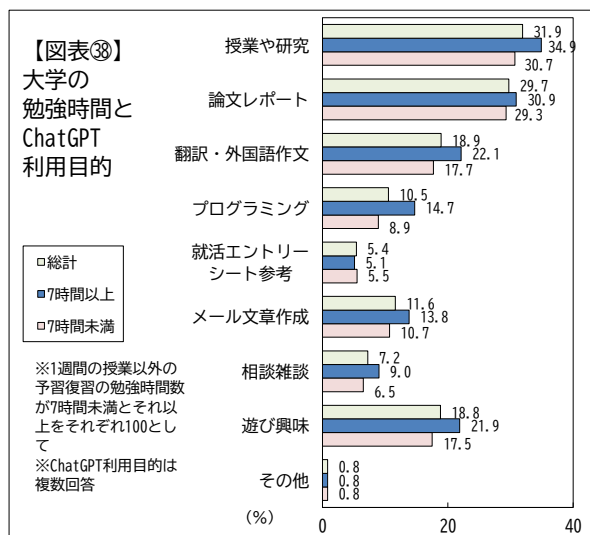
(5) ChatGPT などの文章生成系 AI の利用状況(図表③⑥～④①)



【図表③⑦】 ChatGPTなどの文章生成系AIの利用目的 (複数回答) (%)

	23年	24年	自宅生	下宿生	寮生	男性	女性	文系	理系	医歯薬	1年	2年	3年	4年
授業や研究		31.9	30.4	33.2	34.4	38.5	27.4	25.9	41.0	27.9	28.8	35.2	35.0	29.1
論文・レポートの作成の参考に	22.1	29.7	29.1	30.1	34.1	34.1	27.7	26.5	34.5	28.1	28.8	31.9	32.8	25.7
翻訳・外国語作文	12.1	18.9	19.1	18.6	21.5	21.3	17.9	17.2	22.4	15.7	21.1	20.9	17.4	15.6
コンピュータのプログラミング、エクセルの関数作成	7.9	10.5	10.3	10.6	12.6	15.5	5.9	4.1	20.6	5.1	6.7	10.8	12.7	12.8
就職・インターンシップなどのエントリーシート作成の参考に	4.0	5.4	5.9	5.1	3.3	4.8	6.6	6.9	4.2	3.5	0.8	1.2	10.6	11.0
メールなどの文章作成	6.3	11.6	11.9	11.1	12.8	12.4	11.2	10.2	13.7	10.3	7.8	10.9	13.9	14.6
相談・雑談相手	11.0	7.2	7.5	6.6	11.3	6.4	8.7	7.2	7.5	6.3	6.8	7.1	7.7	7.4
遊び・興味		18.8	18.7	18.7	20.3	22.8	15.5	17.5	21.2	16.4	19.9	18.9	17.7	18.2
その他	3.8	0.8	0.8	0.8	0.5	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8	0.8	0.7	0.9	0.8
無回答	2.9	4.3	4.2	4.4	4.9	2.1	1.9	3.9	4.7	4.8	4.3	5.4	4.1	3.5

*24年から「授業や研究」「遊び・興味」



- A)「利用経験あり」は 23 年 46.7%から、24 年 68.2%に大幅に増加した。専攻別にみると、理工系 77.1%(前年 54.9%)、文科系 62.8%(前年 43.2%)、医歯薬系 62.3%(前年 37.5%)だった。また性別で比較すると男性 74.3%、女性 61.7%だった。
- B) 利用目的では「授業や研究」「論文・レポート作成の参考」「翻訳・外国語作文」「遊び・興味」が上位だった。学年別でみると「メールなどの文章作成」「就職・インターンシップなどのエントリーシートの作成の参考に」「コンピュータのプログラミング、エクセルの関数作成」は上級生ほど利用目的に挙げる傾向がみられた。
- C) 利用目的を「1 週間の勉強時間数」の「7 時間以上」「7 時間未満」別に調べたところ、ほぼすべての利用目的で「7 時間以上」が「7 時間未満」を上回った。この結果は、利用目的にかかわらず授業時間以外の勉強時間(予習・復習、就職・関心事)が長いほど生成系 AI を利用していることを示唆している。特に顕著な差があるのは「大学以外の勉強時間(就職や関心事など)」で、「就活エントリーシート参考」7 時間以上 12.7%、7 時間未満 4.3%、「プログラミング」7 時間以上 17.1%、7 時間未満 9.5%など(大学または大学以外の 1 週間の勉強時間「7 時間以上」「7 時間未満」をそれぞれ 100 として)。
- D) 利用目的を学生生活の重点「勉強や研究」「部活・サークル」「趣味」別に調べたところ、いずれの学生生活の重点でも利用目的に「授業や研究」を 3 人に一人があげている。しかし、「論文・レポート」利用目的は「部活・サークル」重点が 34.3%、「趣味」重点が 28.7%、「勉強や研究」重点が 26.1%、「遊び・興味」利用目的は「趣味」重点が 22.1%、「勉強や研究」重点が 18.6%、「部活・サークル」重点が 17.3%となり、学生生活の重点によって利用目的に差がある(学生生活の重点をそれぞれ 100 として)。
- E) 自由記述欄「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」の傾向を分析したところ、肯定的な意見としては、生成系 AI を使うことでスキル向上や効率化が図れ、活用範囲が広いことが挙げられた。一方、否定的な意見では、不自然な日本語、画一的な表現が問題視されている。また、AI に頼りすぎると思考力低下や創造性の制約を招く恐れがあるとの懸念も指摘されている。数学や専門的な分野での不備、誤情報、著作権等の法的・倫理的な懸念もあり、AI の回答をそのまま信じず、自分で確認する重要性が指摘されている。ユニークな使用方法には、運転免許試験の練習問題作成、旅行プランのサポート、自作ゲームの条件計算、多言語文献検索の補助、日本語のダジャレ作成、小説の書き出しやアイデア出し、自分が企画運営するイベントのアイデア出しなどがあった。

<自由記述欄「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」>

- 様々な視点で答えてくれるのでとても面白いと感じた。指導案の作成等の際に、様々な状況を設定し、どう思考するかを考える案として使用したいと考えている。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)
- 文章としての体は成しているが、専門的な内容への回答の大部分がハルシネーションによって構成されておりそのような方向ではまだ役に立たないと感じた。一方で、Python などのプログラミングに関しては誤りもあるがある程度コードを作れると感じた。(国公立・理工系・4 年以上・男性・自宅)
- 客観的な意見を提供してくれるので、完成した論文の添削程度なら活用できるが、課題を一からやらせようとするのは研究倫理に反すると感じた。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)
- すぐに具体的な回答が得られて便利だと思った。ただ、回答内容に時々おかしい部分が含まれているので、本やインターネットの記事と合わせて参照し、生活する上でのヒントにしようと思った。(私立・理工系・2 年・男性・自宅)
- 研究で分からないことがあった際に、解決の糸口を掴むとしては有用な手段だと感じた。一方、英文法のミスの検出に用いたときは単純な見落とし・誤った修正が多いと感じた。(国公立・医歯薬系・4 年・男性・自宅)

「AI を利用した感想や今後何に利用したいか」について ～自由記述より（抜粋）～

1. 肯定的なコメント

<授業等での活用>

- 様々な視点で答えてくれるのでとても面白いと感じた。指導案の作成等の際に、様々な状況を設定し、どう思考するかを考える案として使用したいと考えている。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)

<文章の添削>

- 文章の添削や要約、アイデアを言語化するのに利用したい。(私立・文科系・4 年以上・女性・自宅)
- メールを企業に送る際、敬語が正しいかをチェックしてもらうこと。(国公立・理工系・3 年・女性・自宅)

<言語学習や基礎学習のサポート>

- 初習言語を学ぶ際に例文を打ち込み、文中のすべての単語・文法を解説してもらう方法が有効だったので、そういった初めて勉強する分野でのスタートダッシュをサポートする道具として利用していきたい。(国公立・理工系・2 年・男性・自宅外)
- 数学の問題で分からないところを聞くと考え方のサポートになって便利だった。(国公立・文科系・2 年・女性・自宅外)

<レポート作成のヒントとしての利用>

- 普段は、レポートを作成する際のヒントとして活用している。生成された文章を骨組みにしたり、抜粋したりしながら、自分のレポートに昇華している。(国公立・文科系・4 年以上・男性・自宅)

<ネット情報のまとめ機能の利便性>

- ネットの中にたくさんある情報をまとめて教えてくれるので便利だと感じた。いろいろなことを聞くと丁寧に答えてくれるので面白かった。(国公立・文科系・4 年以上・女性・自宅外)

<速さ・効率性の評価>

- 少し間違いを出すこともあるけれど、それ以上に早くこちらが欲しいものを提供してくれるので、とても便利なツールだった。(国公立・理工系・2 年・男性・自宅外)

2. 否定的なコメント

<情報の信頼性への懸念>

- まだまだ、信用に足る情報だけではなく、出どころが不明な情報も多く含まれていたため、あくまで参考程度に活用し、情報源については細心の注意を払うべきだと思いました。(私立・文科系・2 年・女性・自宅)
- 文章としての体は成しているが、専門的な内容への回答の大部分がハルシネーションによって構成されておりそのような方向ではまだ役に立たないと感じた。一方で、Python などのプログラミングに関しては誤りもあるがある程度コードを作れると感じた。(国公立・理工系・4 年以上・男性・自宅)

<不自然な日本語・画一的な表現>

- 確かに便利ではあるが、それをそのまま使うと不自然だし主旨に合わないこともあるので自分で校閲する必要がある。(国公立・医歯薬系・1 年・女性・自宅外)

<法的・倫理的な懸念>

- 客観的な意見を提供してくれるので、完成した論文の添削程度なら活用できるが、課題を一からやらせようとするのは研究倫理に反すると感じた。(国公立・文科系・3 年・女性・自宅外)

<AI 依存への危機感・思考力低下の懸念>

- 便利だが、AI 頼みになると思考力が確実に衰えるだろうからあまり利用したくない。(国公立・文科系・4 年以上・男性・自宅)

<不安や恐怖感>

- 便利だが怖いと感じた。(私立・文科系・3 年・女性・自宅)

<誤情報・虚偽の出力>

- 出典元が出てこないの、安易にレポートなどで利用すると正しくないことが書かれるかもしれないと感じた。(国公立・文科系・2 年・男性・自宅)

3. ユニークな使用法

<絵の生成・クリエイティブな遊び>

- 絵を生成して遊んでいます。かなり細かく設定できるので、想像していた以上に楽しくクリエイティブな作品が作れる。(私立・理工系・1 年・男性・自宅外)

<複数人格での討論シミュレーションや自分に似た疑似人格の生成>

- 人物を複数設定して AI 内で討論させ、各自の主張を引き出す試みをしています。ブレインストーミングの一環として活用している。(国公立・理工系・1 年・男性・自宅外)
- 自分の日記を読ませて、自分に似た文章を生成する AI を育てることに利用したい。(私立・文科系・1 年・男性・自宅)

<占いやエンターテインメント用途>

- 占いなどができて楽しい。(私立・文科系・4 年以上・女性・自宅)

<日常生活で役立つコツやアドバイス>

- ~のコツ、といったその人の主観が入りそうな内容にも答えを出してくれるので面白いと思いました。(私立・医歯薬系・4 年以上・女性・自宅外)
- 最近は冷蔵庫の中身を教えてどの料理が作れるかを聞いたりしており、便利なので今後も続けていきたい。(私立・文科系・1 年・女性・自宅外)
- 具合悪い時に症状を入れると深刻なものかどうか判断する手がかりになって便利(国公立・文科系・1 年・女性・自宅外)

*このほか、運転免許試験の問題作成、旅行プランの提示、エクササイズ方法の提案、大喜利やダジャレのネタ、小説やゲーム作成、企画・イベントのアイデア出しなど多様な使い方があった。